

『 交流事業の思い出と交流事業を通して考えたこと 』

天草中学校 2年 石松 千紗



私はまず、この交流事業にあたって様々な面でサポートしてくださった、天草教育委員会や学校の先生方、友達、家族にお礼を言いたいです。私がこのような貴重な体験をさせてもらったのは、沢山の人のサポートがあったからこそだと思っています。

私がこの交流事業に応募したきっかけは、国際交流に興味があったからです。4年前から、私は日本舞踊を通して韓国と国際交流を続けてきました。そして今度は、アメリカとも交流が出来る事になり、とても楽しみにしていました。

出発の日、不安や心配もありましたが、それ以上に期待や楽しみでいっぱいでした。天草からロサンゼルス空港まで合計14時間のフライトでした。

アメリカに到着した時には当たり前ですが、目に見える看板や文字、耳に入ってくる言葉が全て英語でアメリカに来たという実感が湧きました。入国審査をする時、審査官がとても怖い雰囲気だったのが印象的でした。2001年のアメリカ同時多発テロ事件以来、入国審査が厳しくなったと聞き、入国審査の中で指紋を採ったりしていて大変だなと思いました。手続きが終わって空港から出た時、あまりの涼しさに驚きました。日差しは強いのに空気は乾燥してさらさらしていました。現地の日本人の方に市役所まで連れて行ってもらいました。移動の車では、高速道路ですごいスピードで運転していました。途中、昼食にハンバーガーを食べましたが、アメリカでの初めての買い物で、注文する時にとても緊張しました。ドリンクが飲み放題で、アメリカはいいなあと思いました。

市役所に着くと、ホストファミリーが沢山のウェルカムカードで私たちを迎えてくれました。私は御所浦中学校の中村七海さんと一緒に Barth さんの家にホームステイしました。

私たちのホームステイ先は高級住宅街にあり、プールがあるのは当たり前のような所でした。Barth さんの家の玄関を開けると、天井がとても高く、お城のよ

うな所でした。私の家とは大違いで七海さんと興奮したのを覚えています。

Barthさんの家族は美男美女の5人家族でした。お母さんは、とても明るい人でした。出張があったため、初日しか一緒にいらませんでした。お父さんは、日本が大好きでとても料理が上手でした。私のお父さんは料理が出来ないことを話すと、とても驚いていました。長女のローレンは、毎日の朝食や私たちのお世話をしてくれました。よく周りを見ていて気回しが上手なお母さんのような人でした。長男のアレックスは、とても明るく面白い人でした。ボートの運転の先生をしていて、とても16歳だとは思えませんでした。そして、次男のニコラスは同じ年の男の子でした。少しシャイな所もありましたが、優しく接してくれて最終日には私たちのために朝食を作ってくれました。

夕食の時は、日本の話や私たちの日本での生活や学校生活、友達の話をしていました。東日本大震災の話も話題に出て、ホストファザーは東日本大震災が起こった時とても心を痛めたと言っていました。

2日目は、市役所に集合して市役所の中を見学させてもらいました。それぞれの個室はとても個性的で、仕事部屋には家族の大きな写真やアニメのフィギュア、サーフボードやバランスボールなど人によって様々なものが置いてあり、面白かったです。受付には、天草や日本の物も飾ってありました。

先代の市長の写真もありました。女性の方が多く、日本とは違って女性優位という印象を受けました。市役所見学が終わった後はハンセンサーショップやスワミガーデン、カーディフ変人像見学、小学校、サンディエゴアカデミー高校、馬術パーク、スケートパーク、コーヒーショップなどに行きました。

今、アメリカでは食生活が見直されているようで、小学校では畑で野菜を育てていました。とても良い取り組みだと思いました。昼食はピザを食べました。自分が思っていたよりもとても大きさと、それを完食しているアメリカ人の食欲に驚きました。色々な場所を見学し、夕方市役所に帰るとホストファミリーが迎えに来てくれました。

その日の夜は、ホストファザーがパスタを作ってくれました。その後はみんなで映画を観ました。映画は全て英語なので、なんとなくしか展開が分からない私たちにわざわざ映画を止めながら説明してくれました。

3日目は、サンディエゴへ列車で移動しました。アメリカの列車は、切符の確認を抜き打ちで何人かにするだけだと知り、文化と習慣の違いに驚きました。また、列車が3階まであってびっくりしました。列車を降りてしばらく歩き、パドレスベースボールスタジアムで野球観戦をしました。試合中、ディスプレイに私たちを歓迎するメッセージが表示されてとても嬉しかったです。野球観戦が終わって少し買い物をしてからエンシニタスに戻りました。

その日の夜は、ホストファザーが大きなサーモンを料理してくれました。とても柔らかくておいしかったです。そして夕飯の後、家にある骨董品を一つ一つ紹介してくれました。

4日目は、ハイキング、サーフィンなどをしました。サーフィンは、初めは少し難しかったけど、だんだん立てるようになったので嬉しかったです。また、昼食を食べたサンドウィッチのお店でビリヤードも体験しました。とても楽しかったです。

その日の夕飯は、長女のローレンの恋人も一緒に、大きなチキンの丸焼きも食べました。アボカドを初めて食べたのですが、あまり口に合いませんでした。その後に、マシュマロとチョコレートをビスケットに挟んで焼くお菓子をみんなで作りました。食べながら、長男のアレックスが作った花火を見たり、みんなで楽しく話をしました。日本の文化もたくさん教えました。

5日目は、アウトレットモールでショッピング、K1 スピードレース、ダブルピークパークの見学などを体験しました。K1 スピードレースでは、怖くてスピードを出す事が出来ず、他の上手な人たちが羨ましかったです。帰りは、引率できていた本渡中学校の中山先生が車の運転をしました。アメリカの車線は日本とは逆でしかも左側の運転席で慣れていないので難しそうだなと思いました。

その日の夜は、みんなのホストファミリーが集まって、ムーンライトビーチでバーベキューをしました。手作りのハンバーガーが美味しかったです。それからムーンライトビーチにある「天草までここから1万キロメートル」と書いた看板を見に行ったり、みんなでビーチバレーをしたりしました。ビーチバレーは、普通のバレーとは違って砂の上で難しかったけれど、「Nice try!」と声をかけながら楽しみました。

6日目の午前中は、ホストファミリーと過ごしました。私たちは味噌汁を作り、緑茶を出しました。味噌汁は美味しいと言ってくれましたが、緑茶は苦いと言っていました。その後に、長男のアレックスが運転するボードに乗せてもらいました。海中の台の上に野生のアシカがいて驚きました。昼からは、浴衣を着てジャパニーズフェスティバルに行きました。日本人と交流を深めるためのイベントで、日本の方が歌を歌ったりしていました。

夕方には、さよなら夕食会がありました。10メートル以上の深さがあるプールに飛び込んだり泳いだりして、楽しかったです。そしてその日の夜、私たちはホストファミリーに一人ずつメッセージカードを書きました。とても時間がかかりましたが、良いものが出来ました。

7日目はホストファミリーや市役所の方とのお別れの日でした。ホストファミリーと過ごした期間は短かったけど、とても優しく明るく接してくれたり、楽し

い時間を一緒に過ごせたので別れが本当に辛くて涙が止まりませんでした。でもまた絶対いつか再会したいと思いました。

それから私たちはハリウッドやユニバーサルスタジオに行きました。ユニバーサルスタジオでは私は絶叫系マシーンが苦手なので、アトラクションはあまり乗りませんでしたでしたが楽しかったです。沢山の買い物もしました。パーク内でお寿司屋もあって嬉しかったです。

そして、その日の夜は市内のホテルに泊まりました。夜に友達とセブンイレブンに行ったのが楽しかったです。

そして8日目はとうとう帰国の日でした。私たちは朝から空港に向かいました。空港では、ポテトチップスを食べながらパトロールをする警察官がいて日本との文化の違いに驚きました。短い滞在でしたが、少し寂しさを感じながら私たちはアメリカを後にしました。

今回の交流事業で、私は沢山の人と出会い、交流することで沢山の事を知り、沢山の事を学びました。これまで私は物事を天草や日本だけの狭い視野で見えていたのだなと感じ、もっと広い視野で物事を見なければならぬことに気付くことができました。

また交流を通して、自分の意思や思いをしっかりと伝えることの大切さと日本語ではなく、英語で伝えることの大変さや難しさも学びました。そして、外国の文化や習慣を知る事や日本の文化や習慣を教えることで日本の良い所も見えてきました。

今回の交流事業で学んだ事を、これから沢山のの人に発信していきたいと思えます。また、私は日本語教師になって海外で働くという夢があるので、これからの私の将来にも今回の交流事業で経験したことや学んだことを役立てていきたいです。

私は今回だけではなく、これからも国際交流の場に積極的に参加したいです。国際交流の場を通して異文化のことについてもっと知り、日本の文化や私の得意な日本舞踊の楽しさも沢山のの人に伝えていきたいです。

今回の機会を与えていただいた皆様に感謝し、報告にかえさせていただきまします。ありがとうございました。



『 エンシニタス交流事業 』

河浦中学校 3年 小林 瞳



七月二十九日から八月七日までの十日間、アメリカでのホームステイを経験させて頂きました。出発前日の夜、私は楽しみという気持ちと日本を離れる不安とが入り混じって、とてもドキドキしていました。

私が今回の「天草市姉妹都市教育交流事業」を知ったのは四月下旬のことでした。三年生となり、私は「何事にも積極的に挑戦し、充実した一年にする」ということを心に決めていました。学校の英語の授業が楽しくて好きで、自分の英語力を試してみたいという思いもあり、この交流事業に応募しました。校内選考で、作文と面接を行い、見事学校代表として推薦して頂

きました。次の教育委員会での面接までに作文の推敲や面接の練習をしました。ここまで来たからには絶対アメリカに行きたいという思いも生まれ、面接本番では自分が出せる力を精一杯出し切りました。しかし、結果を発表される昼休みになると、とても不安でドキドキしていました。校長先生から、選考結果の紙を渡され、見てみると私の名前がありました。本当に嬉しかったです。

様々なことを思いながら眠りにつき、出発当日の朝になりました。少しの不安とワクワクする期待の入り混じった気持ちで天草空港を出発しました。

福岡、韓国、ロサンゼルスへの乗り継ぎを経て、いよいよアメリカに到着しました。入国審査を終え、現地ガイドの漢那さんの車に乗りエンシニタス市に向かいました。二時間後、エンシニタス市役所に到着しました。それぞれのホストファミリーが、作ってくれたメッセージボードを持ち手を振ってくれている姿を見て、安心するとともに感動も覚えました。

私のホストファミリーはお母さんとその娘のキャッスィディーさんが迎えに来てくださっていました。キャッスィディーは、「こんにちは。私の名前はキャッスィディー・マエダです。よろしくお願いします。」と、日本語であいさつしてくれました。市役所の中に入り歓迎会が行われました。自己紹介をして天草市からのお土産を渡しました。とても喜んでくださいました。

キャッスィディーの車に乗り、ホストファミリーの家へと向かいました。私は、車の中で緊張していましたが、明るく話しかけてもらい少しずつ緊張がほぐれてきました。まだ十七歳なのに車を運転できるということにも驚きました。家に着くとたくさんのプレゼントを頂きました。歓迎してくださっているという気持ちがとても伝わり、うれしくなりました。キャッスィディーに家の中を案内してもらっていると、お父さんとお母さんが仕事から帰ってきました。お父さんも笑顔で話しかけてくださいました。

朝が来て、二日目から六日目までは様々な名所を回りました。その中で一番印象に残っているのは野球観戦です。列車でサンディエゴに行き、歩いて野球場まで行きました。中に入り、まずホットドッグと飲み物を注文しました。そこでまず私が驚いたのは、国歌斉唱の時に、みんな立ち止まり胸に手を当てて国歌を歌っていました。私はそのような姿を見るのははじめてだったのでびっくりするとともに、「みんなアメリカを愛しているんだな」と思いました。

ゲートを通り、ホットドッグを食べ終えた後にスタンドに移動しました。私たちはサンディエゴのチームを応援しました。観戦し始めてからしばらくして、引率の中山先生が、「あっ」と叫びました。電光掲示板に「Welcome」と表示されたのです。それはエンシニタス市役所の方で今回ガイドしてくださったニックさんとマイクさんがサプライズで関係者の方に頼んでくださったものでした。私たちに喜んでもらおうとしてくださってとても嬉しかったです。

試合途中から、もっと観戦しやすい前の方へ移動しました。ここでは、野球のイニング間に、試合で使用したボールを女性の方がスタンドに投げ入れ、観客がボールを捕る姿が見られました。すると、私の後ろに座っていたニックさんがボールを捕り、私にくれました。試合で使われていたボールは少し土がついていました。また、ここではカラフルなコットンキャンディやかき氷を売り子さんが売っており、それらがとても色鮮やかで驚きました。私たちは列車に乗るため、最後まで試合を見ることはできませんでしたが、とても楽しむことができました。

また、私はサーフィンを初めてしました。やってみるととても楽しいものでした。インストラクターの方についてもらいながらしましたが、なかなか立つことができませんでした。また時々波が高くて怖くなることもありました。しかし、たくさん立つために挑戦できたことは良い経験になりました。

乗馬も初体験でした。最初は、馬にエンジンをあげたり、毛をブラッシングしたりさせて頂きました。その後、いよいよ私が馬に乗る順番が回ってきました。とても高くて不安定で怖かったです。しかし、インストラクターの方が笑顔で接してくださり、安心して楽しむことができました。他にもカーレーサーになってみたり、有名なサーフショップやコーヒーショップに行ったりとエンシニタス市

の名所にたくさん連れて行ってもらい、毎日がとても充実した楽しいものでした。

私は、エンシニタス市での十日間、日本人の父親をもつマエダさんという方のお宅でホームステイをさせていただきました。マエダさんは親日家で、家には日本の食品や日本食についての本もありました。また、キャッスィディーは去年の姉妹都市交流事業で天草に来ていたため日本文化にも詳しくて、高校では日本語の授業を習っていて、日本語も上手でした。私は個人的なお土産として、みそやおかゆ、わかめ、くまモングッズなどを持って行ったのですが、家族三人ともとても喜んでくれました。キャッスィディーは去年、天草に来た時に知ったらしく、くまモンのストラップをもっていました。だから私があげたグッズをすごく気に入ってくれて、タオルはすぐに使ってくれました。

また、日本食が好きなキャッスィディーと一緒に少し早起きして、みそ汁をつくりました。具材はワカメだけでしたが、アメリカに来てからはじめての日本食だったため、とてもおいしくて安心しました。ご飯も頂き、嬉しかったです。

日本食のお寿司やメキシコ料理などを食べる機会もありました。近くには様々な国の料理の店があって、見るだけでもとても楽しいものでした。お寿司を食べているとき、私が日本ではツナマヨやコーン巻きがあることを伝えるととても驚いていました。そして、お母さんと「旨み」について話しました。お母さんは日本食にとっても詳しく、話が弾み、私も何か嬉しくなりました。

ホストファミリーの方々は、私を色々な所に連れて行ってくれました。アメリカのショッピングモールの大きさや競馬場でのレースの迫力が印象に残っています。キャッスィディーの友達数人と集まって話す機会もあり、英語でコミュニケーションをとることができました。なかなか上手く気持ちを表せないこともありましたが、英語やジェスチャー等でなんとか伝えることができ、楽しい時間を過ごせました。キャッスィディーの友達にも日本語を習っている人がいて、日本語でもコミュニケーションをとることができました。

今回の姉妹都市交流事業でのホームステイを振り返り、たくさんのことを学ぶことができました。まずは、コミュニケーションの楽しさや難しさです。今回の研修で、アメリカ人の方たちとたくさん話をすることができました。話をする中で、難しい言葉があった時は、どう答えればよいか迷ってしまいましたが、どうにか気持ちを伝えたい、コミュニケーションをとりたいと思い、浮かんだ英語やジェスチャーなどを用いました。アメリカで研修させて頂いた成果の一つとして、色々な人とコミュニケーションをとりたいという意識が更に高まったことがあげられます。

アメリカの文化についても学ぶことができました。アメリカの一般家庭の生活について、食生活や食文化、交通事情なども学びました。アメリカ人の自国を誇

りに思う気持ちも強く感じました。数え切れないほどたくさんの方のことを学ぶことができ、そのすべてが新鮮なものでした。ホームステイ先で、あとぜきをしようとしたら、部屋の扉は開けたままにしておくように言われたことにも驚きました。

私が出会ったアメリカの方々みんなフレンドリーで、私に積極的に話しかけてくれました。そのような姿を私も身につけたいとも思いました。

更に、私自身、もっと自国日本について知らなくてはいけないと思いました。エンシニタス市で、日本について尋ねられた時に上手く答えられないことがありました。もっと自分の住むこの国について誇りをもち、外国の人に日本のよさを発信できるようになっていきたいと思います。

英語学習についても、これまでより更に励み、もっとコミュニケーションを円滑にとれるように頑張ろうと思います。自主的に学ぶ機会を増やそうと考えています。

今回の姉妹都市交流事業は、私にとってとても素晴らしい経験となりました。このような貴重な体験をさせて頂いたことに感謝しています。天草市の代表として派遣して頂いた私たちは、今回の経験を今後活かしていかなければならないと考えています。関係するすべての方々への恩返しの意味でも。ありがとうございました。



『 天草市姉妹都市教育交流を通して 』

本渡中学校 教諭 中山 寛子



【はじめに】

天草市の姉妹都市であるエンシニタス市は温かい人達で溢れ、過ごしやすい気候に恵まれた大変美しい街であった。今回の研修は10日間という短い期間であったが、素晴らしい出会いがたくさん詰まった、充実した10日間となった。

出発の日を迎えるまで、私は天草市の代表生徒6名を率いてのこの研修を前に、大きな責任を感じ、とても緊張していた。しかし、いざ出発すると、どの生徒も主体的で積極的に行動し、注意深く話を聞くことができた。その様子を見ながら、「きっと実り多き10日間となる」と、研修の成功を予感することができ、わくわくしたことを覚えている。また、現地では、先述した通り、迎えて下さる方々の温かさに幾度となく触れる機会があった。生徒たちの積極的な行動と、現地の方々の温かく厚い協力により、6名の生徒たちにとっても、私にとっても大変貴重な経験となった。

1 エンシニタス市での出会い

(1) 第一日目

エンシニタス市の第一印象は「美しい街」であった。ロサンゼルス空港を出発し、約二時間の車での移動の際、私たち一行は長時間の移動の疲れからか全員眠っていた。目を覚ますと水平線の広がる海岸沿いの道路を走っていた。道路を挟み、海の反対側には新しい住宅が建ち並んでいた。まさに青い空と青い海に囲まれた街であった。市役所に到着すると、交流事業に携わっている方々やそれぞれのホストファミリーが笑顔で出迎えてくれた。それぞれの名前の書かれた手作りの看板や横断幕が私たちの興奮をより一層高めた。思い返すと、あまりの手厚い歓迎ぶりに、私を含め生徒たちも、初めのうちは多少とまどいがあったかもしれない。初対面の人に対する接し方が、私たちの知る日本人のものとはギャップがあった。距離が近い。きっと生徒たちにとっては初めての体験であったであろう。

後から聞いた生徒たちの感想の中に、「とてもフレンドリーで驚いた」という言葉があった。私たち一行はそのまま、歓迎会の行われる市役所の中のポインセチアルームに

招かれた。

歓迎会の中で、バース市長からの親書伝達、記念品の贈呈があり、ウェルカムスピーチをいただいた。私たちの紹介をする場面もあったが、その場にいる全員が終始笑顔で聞いてくださり、また相づちを多くうってくださったので、私たちの不安や緊張も一気に姿を消した。その後、それぞれのホストファミリーと共に軽食をいただきながら雑談をし、とても和やかな歓迎会となった。歓迎会が終わると、それぞれの家庭へ向かい、一日目の午後を過ごした。

(2) エンシニタス市との出会い

私たちは、予めエンシニタス市についていくつかの知識を持って研修に臨んでいた。例えば、年間を通して雨が少なく、平均気温は22度と温暖だということ、人口は60,000人程で以前は花卉栽培が盛んに行われていたということなどである。

実際に、私たちがエンシニタス市で過ごした7日間のうちに雨が降ることは一度もなかったし、暑くて汗をかくこともなかった。気候に関していえば、朝夕や日中の日陰などでは肌寒く感じることもあり、薄手の長袖が必要であった。蒸し暑いと感じることもなく、夏なのにとても過ごしやすいという点では、正直に言うと日本よりも魅力を感じた。ただ、湿度の高い環境からいきなり乾燥しているところへ行ったため、肌の乾燥もひどく感じた。個人差はあると思うが、私は手足や鼻が特に乾燥し、皮がむけてきたので、保湿が必要であった。植物も、天草のもののようにきれいな緑色をしておらず、全体として茶色がかった姿は水不足を顕著に表していた。街中や個人の家の庭先には、水が少なくても育つサボテンなどの植物が多く植えられているようだった。その大きさも種類も様々で、初めて見るサボテンも多くあった。

また、街の至るところでビニールハウスを見かけた。実際に花が育てられているところもあったし、もう使われていないところもあった。エンシニタス市は花卉栽培で栄えた都市であると知られているが、現在では他の商業や観光業にも力を入れているような印象を持った。

エンシニタス市の別の印象として、スポーツが好まれている、というものが残った。ビーチではサーフィンやビーチバレーをする人が大人から子どもまでたくさんおり、そのための施設もよく整えられていた。小さな子どもは、サーフィンとは別に、ブギーボード（私たちの知るボディボード）と呼ばれる少し小さめの板で波乗りを楽しんでいた。また、スケートボードをしている少年少女や青年もたくさんいた。さらに、トライアスロンがきっかけとなってエンシニタス市と天草市は姉妹都市となったそうだが、たくさんの人達がジョギングをしたり自転車でトレーニングをしたりする姿を毎日のように目にした。私のホストマザーも、毎朝プールで泳ぎ、定期的にウォーキングをしていた。他にも、ゴルフ場がたくさんあり、多くのゴルフ愛好家たちがエンシニタス市を訪れているということを知った。

このように、予備知識として持っていた情報について自らの目でさらに詳しく確かめることができたし、エンシニタス市について新たに学ぶことも多くあった。エンシニタス市と天草市には似ているところがある、という人もおり、私自身ではそんなに多くの共通点を見つけることができなかつたが、海に沈む美しい夕陽を眺めることができるのは二つの市の共通の美点であると感じた。多くの異なる点も、一つ一つが大変魅力的な街であった。

(3) 人々との出会い

エンシニタス市での最高の出会いは、何と言っても人々との出会いだった。ホストファミリーを始め、市役所の方々や私たちを受け入れてくださるすべての方々本当に温かかった。私たちを受け入れよう、理解しようとしてくださる思いが、今回の研修の充実をもたらしてくれたものだとして強く感じる。今回私たちをもてなして下さった方々の中には、この姉妹都市交流プログラムを通して、天草を訪れたことがある方や、研修生として天草を訪れた生徒の家族の方などがいらっしやった。その方達は、口を揃えて「天草は素敵なおとこ」「また天草を訪れたい」「天草でとても親切にしてもらったので、あなた達に恩返しをしたい」と話されていた。人からよくしてもらった分、自分も人によくしてあげたい、という心と心のつながりの美しさを、肌身を持って感じることができ、大変強い感銘を受けた。同時に、今度は私たちが誰かに恩返しをしていく番であるという使命感も感じた。

また、いつも私たちの活動を助けてくれ、同時に楽しませてくれたのが現地の学生達であった。ホストシスターやホストブラザーだけではなく、日本に興味を持っている学生など、毎日、数名の学生が行動を共にしてくれたことで、天草からの代表生徒達も大変喜んでいて。同世代の人達と話をしたり、行動を共にしたりしていく中で、学び、感じることも多くあったと思う。特に夏休みに宿題や部活動がない、ということには、どの生徒もとても驚いていたようだった。

さらに、店で買い物をしたり、道端を歩いたりしている時に気軽に声をかけ合う風習が素敵だと感じた。あいさつはもちろんだが、どこから来たのか、など世間話をしてくれる人もいた。

2 現地での様々な活動

7日間の滞在で私たちが楽しめるようにと、多くの活動を計画していただき、体験することができた。以下に、私たちが体験した主な活動と内容を書き残したいと思う。

- ・市内観光・・・エンシニタス市の中心街を観光した。ハンセンサーフショップという老舗を訪れ、多くのサーフィンググッズを見ることができた。記念に、一人ひとり店名

入りの帽子をいただいた。スワミガーデンという美しい庭園では、たくさんの人々がメディテーションをしながら心を落ち着けていた。海岸沿いの道路には、変人像と呼ばれるサーフィンをしている青年の姿の銅像が建っていた。その日は誰かの誕生日だったようで、「〇〇〇、誕生日おめでとう！！」と書かれたメッセージボードがぶら下げてあったり、にぎやかに装飾されたりしていた。話を聞くと、誰でもいつでも、自由に装飾をしていいということだったので、日本との文化の違いを感じた。

- 高校ツアー、乗馬体験・・・「サンディエゴアカデミー高校」という学校を案内してもらった。ちょうど演劇の練習をしている学生がいて、その練習の様子を見ることができた。また、日本語の教室も見せていただき、多くの学生がそこで日本語を学んでいることを知った。生徒たちも大変興味を持っていたようだった。乗馬体験では、二頭の馬に餌をあげたり、毛をブラッシングしたりの世話をしてから乗せていただいた。生徒たちは、一人も怖がることなく、楽しんでた。
- スケートパークツアー、コーヒーショップ訪問・・・YMCA という施設に行き、スケートボードのコースを主に見学した。中高校生くらいの男の子が多かったが、中には小さな女の子も練習に励んでいたのが驚いた。街中にはおしゃれなカフェがたくさんあり、その中の一店を訪れた。それぞれ英語を使って、自分で好きなものを注文をすることができた。飲み物とスイーツを頼む生徒が多かったが、その甘さと大きさに苦戦しているようだった。
- 野球観戦・・・二階建ての電車に乗り、40分ほどかけてサンディエゴ市内へ移動した。ペトコパークという野球場で、パドレス対シンシナティの試合を観戦した。球場の盛り上がりには生徒たちは興奮して喜んでた。途中、サプライズで球場の液晶画面に「天草から、ようこそサンディエゴへ！」の文字が浮かびあがった。私たちは予想もしていなかったので、エンシニタス市の方々の、粋な計らいにもとても感動した。
- ハイキング・・・トーレイパインズ州立保護区という場所に行き、野生生物や植物を見ながらハイキングをした。頂上に着くと、見渡す限り、目の前に太平洋の美しい水平線が広がっていて、とても感激した。その後、グライダーポートと呼ばれる丘に移動して昼食をとった。青い空と海に挟まれて飛んでいくパラグライダーがとても美しかった。
- サーフィン・・・生徒たちが最も心待ちにし、楽しんでたことのひとつが、サーフィンだった。ウェットスーツを着て、インストラクターの方に説明をしていただき、早速チャレンジした。初めてという生徒がほとんどで、初めのうちは何度も失敗してボードの上うまく立つことができなかったが、だんだん上達し、30分ほど経ったころには、波に乗ることができるようになっていた。
- アウトレットモール、K1 スピードレース・・・大きなモールで、ショッピングを二時間ほど楽しんだ。ランチで食べたハンバーガーがとても大きく、全部食べきるのが

苦しいほどだった。K1 のレースでは、ミニカーに乗って、カーレースを自分たちで体験することができた。予想以上にスピードが出たが、安全に十分配慮してあったので、安心して楽しむことができた。

- ・ダブルピークパーク・・・とても眺めのよい丘だった。サンディエゴ全体を見渡すことができる場所だった。
- ・ジャパニーズフェスティバル・・・日本の合唱グループによる歌や、尺八、琴、日本舞踊などが披露されていた。その他にも、折り紙などの日本文化が紹介されていた。中には、現地の方々に鶴の折り方を教えている生徒もいた。たくさんの方が日本に興味をもってくださっていることがわかり、文化を受け継ぎ、伝えていくことの大切さを感じた。

3 生徒たちの様子

10日間の研修の間、毎日見る生徒たちの表情は、とても生き生きと輝いていた。上述した以外にも多くの活動をさせていただき、生徒たちは、何をするにも、臆することなく、楽しそうに積極的にチャレンジしていた。天草から一緒に行った6名の、お互いの存在が心強かったのだろうと感じる。始めは少しよそよそしくしていたが、多くの活動を共にし、数日間一緒に過ごしていく中で、様々な話をし、仲が深まり、絆が生まれていたように思う。また、本人たちの自覚はあまりなかったかもしれないが、6名全員が、様々な場面で成長を見せた。英語に関していうと、始めはYes/Noだけで会話をしていたが、すぐに慣れて、より詳しく答えようと努めたり、自分たちからも質問をしようとしたりしていた。研修中、何度も「もっとわかるようになりたい」「これから英語の学習をがんばりたい」という言葉を生徒たちから聴くことができた。実際に英語を使ってコミュニケーションをとる機会を持ち、英語を使って人とつながることや、新しいものと出会うことの素晴らしさを感じることができたのだろう。

空港において、行きは不安そうに「自分たちでやるんですか」と話していた生徒も、帰りは率先して行動できるようになっていた。質問に受け答えたりしながら、自分の力で税関を通ったり会話をしたことによって自信がついたようだった。研修中での様々な経験により、生徒たちが精神的に成長したことを実感した。

【おわりに】

天草市の姉妹都市「エンシニタス市」は本当に素敵な街であった。実際に行くまでは知っていることもほとんどなかったが、行ってみると、温かく受け入れてくださり、とても親しみを覚えた。エンシニタス市の人たちは、“Amakusa”を身近に感じてくださっているように感じた。私たちも、これから、エンシニタス市のことを周囲に伝え、姉妹都市として、もっとつながっていくことが大切であると感じた。両市の結びつきがさ

らに広く、固いものとなるように、まずは今回研修に参加した私たちが、少しでもその懸け橋となっていければ、と思う。また、同じ世界に住む私たちは、お互いを受け入れようとすることによって親しくなることができる、と改めて感じた。教師として、これから出会う子どもたちにもしっかりと伝えていきたい。

「本当に楽しかった、また必ず来たい。」とすべての生徒たちから聞いたことが、この研修の成果であると思う。新たな土地や出来事、たくさんの人々との出会いが詰まったこの研修の中で、私たちは多くのことに挑戦させていただいた。そして、何にでも意欲的に果敢に挑戦することで、生徒たちはたくましくなったように思う。生徒たちには、今回素晴らしい体験を共にした仲間を、今後も大事にしてほしいと思う。

本当に貴重な経験をさせていただき、多くの方々に感謝の気持ちでいっぱいである。このような機会を与えてくださった天草市当局、及び教育委員会の方々を始め、すべての関係者の皆様に深く感謝を申し上げたい。



Hiroko Nakayama
English teacher
Hondo Junior High School
Amakusa

Sister City Educational Exchange Project
Report on the Student Delegation to Encinitas Sister City of Amakusa

Introduction

Our sister city, Encinitas was a wonderful city. The people there were always so warm, and the weather was so nice. The period of this program was only 10 days; it was short, but it was a satisfying time that was filled with great meetings.

Until the day we left, I was very nervous, feeling that it was a big responsibility to take six representative students from Amakusa to another country. However, when it came time to leave, I didn't have to worry about it at all because the students behaved well the entire time. They listened to me carefully and acted independently. I started to get excited and to have no doubts of the success of this program. I was sure that we would have a fruitful 10 days. Thanks to the students' positive behavior and the hospitable welcome and cooperation of people in Encinitas, we had a very precious experience.

1 Meetings in Encinitas

(1) The first day

My first impression of Encinitas was "A beautiful city." After we left Los Angeles Airport, we all slept in the van for about two hours because we were exhausted from our long trip. When we woke up, our van was running on the road by the beach. We saw the horizon there. We have the sea in Amakusa, too, but we don't have such a perfect horizon, so we were impressed by the view. On the other side of the beach, we saw that new houses stood in rows. Encinitas was just the city which is surrounded by the blue sea and the blue sky. At the city hall, many people welcomed us. Each of our host families held up a signboard which had our names written on them. We were really excited to see them. Reconsidering that moment, some students may have felt puzzled about how to greet new people, because it was more personal than it is in Japan. Later, I heard from one student's impression that the people were surprisingly friendly. And I thought so, too.

In our welcome ceremony, we got a personal letter from the mayor of Encinitas

to give to our mayor Mr. Yasuda, a commemorative and a welcome speech. During our introduction, all of the people there smiled at us, so our fears and nerves completely disappeared. After the peaceful ceremony, we went to our respective host family's houses and spent the afternoon there.

(2) Meeting Encinitas city

Before we left Amakusa, we learned a few things about Encinitas. For example, it seldom rains throughout the year, the temperature was around 68F to 80F, the population is approximately 60,000, and the city is the flower growing capital. Indeed, it never rained while we stayed, and even though we stayed for seven days, we rarely sweat there. Regarding the weather, it was sometimes chilly in the morning or in the shade, so long sleeve shirts were needed. Compared to Japan, it was not humid at all, so it was a very fascinating point for me, and I felt it must be a very comfortable place to live. At the same time, I realized that my skin got dried. The effect varies from person to person, but some people may need to use moisturizing cream there. Concerning plants, the colors were not as green as in Amakusa. The brown plants clearly indicated the problem that the city faces on a water shortage. There were many cacti in the city and residential gardens because they grow well with little water. There were also various kinds and sizes which we had never seen in Amakusa.

Moreover, I found many plastic greenhouses everywhere in the city. Some of them had flowers inside, and the others had nothing; it seemed they were not used anymore. Encinitas is known as the flower growing capital, but now, from my impression, it puts emphasis on other commerce such as sightseeing and tourism.

Another impression of Encinitas was that the people love exercising. Many people, from children to adults, enjoyed surfing and beach volleyball at the beach, and the facilities for those were well prepared. Kids enjoyed boogie boarding instead of surfing. Also, some youngsters enjoyed skate boarding. Moreover, I saw many people jogging and riding a bicycle every day. The triathlon was the reason why Encinitas and Amakusa became a sister city in the first place. I could tell that it has been getting popular in both cities. My host mother also swims in the pool every morning and goes walking sometimes. Additionally, there were many golf courses in Encinitas and many people have visited there.

Like this, we could deepen our information of the city and learn many new things. Some people said Encinitas and Amakusa are similar, but I did not find many points in common. Still, the sunsets on the sea are really beautiful in both cities. Both the points they have in common and their differences are very attractive for us.

(3) Meeting people

Out of everything, the best meeting in Encinitas was meeting people. Not only our host families, but also all of the people who were concerned to have us were really warm-hearted. Their feelings and behavior trying to help and understand us brought this full homestay program to us. Some of the people had been in Amakusa as students or leaders of the delegation. Those people said to us, "Amakusa is a nice place," "I want to visit Amakusa again," or "We'd like to do something in return for someone because we got much kindness there." Then, I felt that humans' relationships are very beautiful, and I was very impressed with that. At the same time, I felt a sense of inspiration to do something for people in return from now on.

Moreover, the students there always helped our activities and let us have much fun together. Our host sister, host brother and many students who were interested in Japan always delighted the students from Amakusa. They were almost the same age, so talking and just being with them brought the students many new experiences. Especially the fact that students in America have no homework and club activities in summer vacation seemed surprise our students.

Another nice thing was that people there seemed to feel at ease about talking with someone on the way or in a shop, even if they do not know each other. Many people greeted me with a smile and some people asked me where I came from.

2 Many activities in Encinitas

The people in charge of this program made a satisfying plan so that we could have a great time, so we really enjoyed the seven days there. I would like to explain those activities below.

- City tour... We walked around in the down town of Encinitas. We visited a big, old surf shop, and saw many surfing goods. The owner gave us a cap, with the shop's name written on it, as a commemorative gift. In Swami garden, a very beautiful place, many people were meditating and composing themselves there. We saw a bronze statue of a young man called Cardiff curious statue on the road near the beach. That day was someone's birthday, and the statue had a message board written "Happy birthday ○○ ○!!" and was decorated lively. We heard that anyone can do such a thing to the statue at any time, and we found the different culture compared with our Japanese one.
- High school tour and a horseback riding... One host sister took us around to San Dieguito Academy High School. Some students there were practicing their play and we had a chance to see it. We also visited the Japanese class room, and we knew that many students were learning Japanese there. Students from Amakusa also were very

interested in that fact. At the horse park, we fed two horses and brushed them. After that, students from Amakusa enjoyed a horseback riding, and they were not afraid of doing it at all.

- Skate park tour and visiting a coffee shop... We visited a skate board course. Many youngsters enjoyed skate boarding there. Most of them were boys in high school or junior high school, but the others were girls. Even a little girl was there, so it made us surprised. In downtown again, there were many stylish cafes, and we visited one of them together. Students tried to order in English by themselves. They tried drink and sweets there and were surprised that the size was big and the taste was so sweet.
- Watching a baseball game... We took a double-decker train which we do not have in Amakusa, and went to downtown San Diego to watch a baseball game. It took almost 40 minutes. The game was between the Padres and the Cincinnati and held at a stadium called Petoco Park. The people in the stadium were very excited, so it made the students excited and happy, too. During the game, we saw a message "Welcome to San Diego, from Amakusa, Japan!!" on the back screen as a surprise. We did not expect that, so we were really moved by that great deal of consideration for us.
- Hiking... We visited Torrey Pines State Beach and hiked, watching wild animals and plants. When we got to the top of the hill, the beautiful horizon of the pacific stretched as far as the eye can see. After that, we had lunch at Glider Port. The paragliders, between the sky and the sea, were very beautiful.
- Surfing... One of the activities that students enjoyed and had waited for a long time to do was surfing. We wore wetsuits and got taught how to do it by the instructor, and instantly tried it. For most students it was their first time, so they could not stand on the board at the beginning, but gradually they progressed and they could handle it pretty well after about 30 minutes.
- Outlet mall shopping and K1 speed race... At a big mall, we enjoyed shopping for two hours. The hamburger we had for lunch there was very big, and it was hard to finish it. About the K1 race, we experienced a trial car race ourselves, riding a mini car. The speed was faster than we expected, but it was considered safe, so we were able to have fun without worrying.
- Double peak park viewing... The view from the hill was very magnificent. From that place, we could look over the whole of San Diego.
- Japanese festival... We met many Japanese people and saw many things. Traditional Japanese songs were sung by a Japanese chorus group, and shakuhachi, koto, and Japanese dances were displayed there. Origami was introduced, too. Some of the students there taught visitors how to make things with paper. We found that many

people were interested in Japan, and felt the importance of sharing our traditions.

3 Students' growth

During the program, the students' expressions were lively. We experienced many things outside of the things I showed above, and they willingly challenged everything without hesitation. I am certain that the presence of the other students from Amakusa was very reassuring. At the beginning of the program, they were acting distant with each other. But throughout the few days they spent together, they talked with each other a lot, the terms became closer, and I think that ties of friend were born. Although they might have not realized it, they grew in various ways. As for English, they spoke only yes or no at the beginning, but soon they got used to using English and tried to answer with more details and ask something from them. During the program, I heard them say "I would like to understand what my host family says," and "I will study English harder from now." They actually had a chance to communicate with someone in English, and realized that we can get closer with many people and learn new things through English.

At the airport, some students said "Do we handle it by ourselves?" and worried about it on the way there, but they independently found their gate on the way back to Japan. They had confidence when going through customs and answering or talking by themselves. They had matured mentally after their many experiences on this trip.

Conclusion

Our sister city, Encinitas, was a really nice city. We knew few things about it until we were there, but once we went we had friendly feelings. People in Encinitas think Amakusa is similar to it. We would like to show our surroundings about the city and connect more tightly as a sister city. I hope both cities will have more open relations from now. We need to act as a bridge between the cities. We live in the same world, so if we try to accept others, we can make closer, good friends. As a teacher, I will tell my students now and in the future what I found.

The fruit of this program is that all six students said "I really enjoyed it. I want to come here again." We tried many things in a land which was filled with great meetings, new things, and people. Then, the will and bravery of the students strengthened their spirits.

I am thankful to many people that we had a great and precious time in Encinitas. I would like to express my appreciation to all the people involved, especially the city of Amakusa and the Amakusa Board of Education.

★ ホストファミリーと一緒に・・・ ★



★ ホストファミリーと一緒に・・・ ★



★ ホストファミリーと一緒に・・・ ★



2013 天草市姉妹都市教育交流事業研修報告書

発行者/天草市教育委員会教育総務課

〒863-0048 熊本県天草市中村町 10 番 8-1

TEL 0969-32-6771 FAX0969-23-0077

<http://www.city.amakusa.kumamoto.jp>